

# 光り輝く南インド古典舞踊の世界



衣装はサリを仕立てたもの。あそびあそびにゴールドのホーダーが入っているのが「バラタナティヤム」の衣装の特徴。

足首に鈴がういていて足を踏みしめると鈴の音がひびきわたります。

踊りの神様  
シヴァ・ナタラジャの像

舞台に必ずこの踊りの神様の像を置いて踊ります。



Nataraja

ゴールドのアクセサリーをたくさんつけて豪華絢爛。

目のふちどりもインドのお化粧の特色。目の動きも決まっているので目玉を上・下・左・右に動かす練習もある。(でもこれで目の疲れがやわらかとか...)



手足の指先を赤く塗るのとくちょう

インド料理やインドの雑貨、絵画などは日本でも大人気。今回はインドの古典舞踊をご紹介。先生は古典舞踊のひとつ「バラタナティヤム」ダンサー・藤原真奈美さん。

インド古典舞踊には4つの踊りがあった、「バラタナティヤム」はそれの中でもいちばん古い、南インドのタミルナードウ州の舞踊。古くはきびしい練習を積んだ巫女さんが寺院で踊っていたもので、ヒンズー教の神々にささげる聖典に音楽がつき、踊りができた。南インドの古典音楽にあわせて踊られる。基本的には女性のソロの踊りで、寺院の彫刻からとられたという「アラマンディー」という基本のポーズをきちんとして守り、腕の高さ、角度、手の動き、目玉の動きまで、きびしく形が決まっている。

インドでもこの舞踊を習う人はそう多くはなく、神戸に住むインド人の中には藤原さんに「バラタナティヤム」を習っている人もいるそう。藤原さんが踊りの師であるヤシヨー